

## 2009 年度秋学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	産業関係基礎論		

<秋学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

今学期は、約90人程度の受講生に対しチューターが4人程度で、先生方の講義のお手伝いをしました。具体的にはプリントの配布・回収。グループワークなどの際にいくつかグループを受け持ち、受講生にアドバイスをしたり、方向修正やグループ内全員の意見を聞き出せるように進行役などをして、話し合いがスムーズに行えるようにしていました。グループ単位で課題が出た時はグループの代表の受講生と個人的にメールでやり取りするなどして、アドバイスをしていました。

ディスカッションやプレゼンには慣れていないようだったので、どうすれば説得力のあるプレゼンになるか（具体的にはどのような調査のデータを持ってくればよいか）を話したり、どのような方向でプレゼンをまとめていくのか（話し方やパワーポイントの見せ方など）について話しました。

秋学期ということで、受講生同士も仲良くなっており、グループワークの作業進行の計画を立てるときなどはスムーズにできていたと思います。だからこそ、今学期1番悩んだことは、どこまでチューターが関わっていけばいいかということ。自主性を尊重すべきかと思い、グループ内で話し合いがうまくいかなかったときや、進行具合の確認、必要であれば方向修正など、最低限の確認とアドバイスだけをしていました。しかしそれが裏目に出たのか、1度受講生が課題と大幅にずれた発表をした事がありました。代表者を決めて定期的に確認のメールをするなど、もう少し深くかわってあげていれば、このようなことを防げたのかもしれませんが。

受講生同士が仲良くなってきたとはいえ、秋学期はそれぞれサークルや部活などにも力を入れるようになる時期だと思います。各人が忙しくなれば、グループワークの課題が出て集まりにくくなるのは当然のこと。受講生の努力という面ではあまり手は出せませんが、短時間でうまく課題をこなせるように、人数の割り振り方、効率的な資料の集め方など、アドバイスできる点はまだまだ多くあったと思います。それができなかったことが、今回の反省点です。

<今後のチューターまたは先生への提案>

とりあえず、受講生と仲良くなるのが大事だとわかりました。そうすれば受講生はメールでも質問しやすいので。実際に廊下で会ったときにあいさつしたり、担当授業以外の授業で出た課題について質問されてアドバイスしたりしていました。先生方との連携はもちろん大切ですが、今回は全体講義だったので特に受講生とのつながりの必要性を感じました。（少人数授業なら、先生方との連携の重要度がもう少し増すと思います。）